

# 経済マンスリー

## [中国]

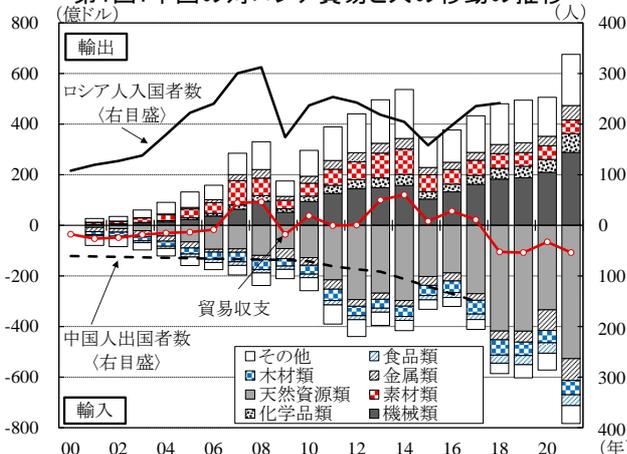
### 中露経済関係概観

ウクライナ危機に伴い主要先進国が前例のない規模での対露経済制裁措置を発動する中、中国は「このような状況に陥ったのは、中国が見たくないこと」（3月19日米中首脳会談時の習近平国家主席発言）としつつも、「全方位的で無差別的な制裁を実施すれば、苦しむのはやはり一般の人々」（同）として、経済制裁には距離を置く姿勢を保っている。

この点、改めて中露経済関係の現状を確認する。まず貿易面でみると、ロシアの対中貿易額は同国の貿易総額の20%程度を占め、単一国・地域としては中国がEUに次ぐ貿易相手となっている（2021年）。対して中国の対露貿易額は同2.4%に止まるが、両国間の貿易規模は年々増加傾向にあり中国にとっても重要な相手といえよう。主要貿易品目としては、中→露は『機械類』、露→中は『天然資源』となっており、両品目の合計で貿易総額の過半を占める（第1図）。とりわけ、中国の化石燃料輸入に占めるロシア産のシェアは相応に高く、石炭・石油・天然ガスの全てで上位3カ国に入る。中でも環境への影響の観点から近年需要が増加している天然ガスについては、2019年の最初の中露間パイプライン（「シベリアの力」）開通以来顕著に増加している（第2図）。2月の中露首脳会談でも天然ガスの輸入拡大が発表され、足元ではパイプライン新設計画も複数進行中であることから今後一層の取引拡大が見込まれよう。こうした貿易関係を背景に、ロシア中銀は2018年から外貨準備に人民元を組み込んだほか、2014年に中露間で結んだ2国間通貨スワップ（1,500億元規模）の継続など金融面での協力関係もみられる。他方、投資面での関係をみると、相手国への直接投資及び証券投資はいずれの方向も規模は限定的であり（それぞれの名目GDP比でいずれも0.1%未満）、足元でも特段の加速は確認されない。

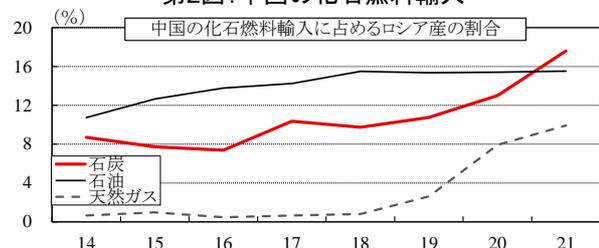
3月末の中露外相会談では、両国間の協力関係強化が改めて確認されている。但し、制裁の影響で実務的に取引の困難さが増しているほか、ウクライナ危機により中露経済関係が米中対立の更なる火種となる可能性もあり、今後難しい舵取りを迫られていると言えよう。

第1図：中国の対ロシア貿易と人の移動の推移



(資料) 中国海関総署統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：中国の化石燃料輸入



中国の化石燃料輸入先上位国(2021年)

天然ガス		石油		石炭		
1位	豪州	25.7 %	サウジアラビア	17.0 %	インドネシア	60.4 %
2位	トルクメニスタン	19.6 %	ロシア	15.5 %	ロシア	17.6 %
3位	ロシア	9.9 %	イラク	10.5 %	モンゴル	5.1 %

(資料) 中国海関総署統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 野瀬 陽平 youhei\_nose@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。